

はじめに

医師の世界は独特です。よく言えば多様性ですが、ともすれば不思議なことがまかり通ったりすることも少なくありません。一方で、ちょっと風変わりなことをする人であっても、いざ医療の現場で仕事となるとスイッチが入るのを何度もみました。なかには自分の職場には努力しない人も仕事をしない人もいると思われる先生もいるかもしれませんが、大半の医師は医療に真摯であると思っています。そして、この現象の根底には組織の力の影響も少なからずあると私は感じています。

かつては病院や大学という組織によってコントロールされている色合いが強かった医師ですが、今やマッチすればどこの病院でも働けますし、官公庁や企業で働く人も増えています。もしかしたら数年後にはもっと選択肢が広がっているかもしれません。そのくらい、医療を取り巻く環境は目まぐるしく動いています。

そんな自由の時代を生きていく医師はラッキーなのでしょうか。いえ、一概にそうとは言いきれません。選択肢が広がるぶん、働き方や実力の培い方がものを言ってくる可能性が高いからです。つまり、医師としてのキャリアをきちんと計画していく人が有利になってくるのです。

本書では医師人生における経験談を中心に、先輩たちの悩みの先にどんな決断が下されてきたのかがわかるように構成しています。自分に照らし合わせながら読み込んでよいですし、なんとなくの参考意見として読み下していても問題ありません。選択肢に悩む先生、あるいは今の仕事にやりがいを感じつつもふと疑問が頭をよぎる先生にとって何かしら参考になるはずです。実際の他の先生のストーリーを読んだ私は若い頃の自分に読ませてみたいと思いました。本書が何かしらみなさんの力になれば幸いです。

2020年6月

園田 唯